

公益財団法人岩手県文化振興事業団 第13回評議員会議事録

1 開催日時 平成30年6月14日(木) 午後1時25分～午後2時45分

2 開催場所 岩手県立美術館 ホール

3 出席者 評議員総数 9名
出席評議員 8名

評議員 黒澤 秀之

評議員 佐々木 民夫

評議員 中村 光紀

評議員 高橋 信雄

評議員 畑中美耶子

評議員 西舘 政美

評議員 藤澤 清美

評議員 西村 豊

出席理事 4名

理事長 菅野 洋樹

理事 佐々木 一成

理事 及川 伸一

理事 坂本 誠一

出席監事 1名

監事 久保 隆男

4 議長 評議員 佐々木 民夫

5 決議事項

議案第1号 公益財団法人岩手県文化振興事業団評議員の選任について

議案第2号 平成29年度計算書類及び付属明細書並びに財産目録の承認
について

6 報告事項

報告事項1 平成29年度事業報告及び付属明細書について

報告事項2 公益目的事業の統合について

7 議事の経過の要領及びその結果

定刻、事務局長が本評議員会は、定款第20条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。

菅野理事長の挨拶の後、定款第19条の定めに従い、出席した評議員の互選により選出された、佐々木民夫評議員が議長となり以下の議事を進めた。

なお、議事録署名人については、議長一任とする提案がなされたので、議長は黒澤秀之氏と畑中美耶子氏を指名、全員異議なく承認され、両人も承諾した。

〔決議事項〕

(1) 議案第1号 公益財団法人岩手県文化振興事業団評議員の選任について

議長は議案第1号を上程し、総務部総務課長より別紙議案書に基づき説明、その賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

〔報告事項〕

(1) 平成29年度事業報告及び事業報告付属明細書について

総務部総務課長、県民会館ホール課長、埋蔵文化財センター総務課長、博物館副館長及び美術館副館長より別紙議案書に基づき説明がなされ、全員異議なく、これを了承した。

≪質疑事項等≫

【議長】

博物館・美術館ともに、どんな取組みが入館者増につながったと分析しているか。

【博物館】

館長が、博物館の仕事はサービス業と常々話しており、それが職員に浸透して県民ニーズを意識して業務をするようになった。

このことにより、企画展等の担当者には大きな負担がかかるが、複数人でプロジェクトチームを組むなど、負担を分散する取組もしている。

【美術館】

昨年度は企画展のコンテンツに恵まれたこと、また報道機関と実行委員会を組織して企画展を実施することで効果的な広報をしていただいたことの二つが大きな理由と分析している。

【理事長】

博物館では、所蔵している財産を眠らせずに、県民に観ていただくために、企画展とは別に「骨の動物園」などのトピック展を春休み期間に合わせて実施したり、ゴールデンウィークにはIGRと連携し、芝生でミニSLを走らせるなど、いろいろな取組みが功を奏したと考えている。

今後も同様の取組みを継続していくこととしているが、職員の負担も増えるので、先ほど申したとおり、複数人で対応して負担を分散している。

【評議員】

冬期間は来館者が大きく落ち込むのが普通であるが、美術館では「篠山紀信展」と、確実に来館者が見込まれる展覧会を企画したことに感心した。またテレビCMが多く流れているのは、非常に効果的に感じた。

【評議員】

県民会館が昨年度から休館し、県民会館の存在がいかに大きかったかを痛感している。再開後はますます魅力的な事業を開催してほしいと願っているし、我々としても、一緒にやっていきたいと思っている。

【評議員】

文化振興基金について、練習施設の修繕は助成対象となるか。
また、昨年度は24件の助成に対しどの程度の申請があったか。
近年は基金本体を取り崩しているようだが、助成回数の撤廃は良いことだと思う

【総務部】

施設の修繕は助成対象とならない。
申請に対して、不採択となるのは1件程で申請があったものは、ほぼ採用している。

【議長】

博物館や美術館で収蔵品を眠らせることなく企画展に活かす工夫や、埋蔵文化財センターでの発掘された資料を現地で見せるなどの機会を事業団の事業に採り入れられていることは、ひとりの県民として嬉しいことである。

是非今後においても、いろいろな形でやっていただきたい。

[決議事項]

(2) 議案第2号 平成29年度計算書類及び付属明細書並びに財産目録の承認について

議長は議案第2号を上程し、総務部総務課長より別紙議案書に基づき説明、及び久保監事による監査報告がなされ、その賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

[報告事項]

(2) 公益目的事業の統合について

総務部総務課長より別紙議案書に基づき説明がなされ、全員異議なく、これを了承した。

≪質疑事項等≫

【評議員】

統合しても、これまでの各区分で収支の管理は行うのか。

各区分で管理しないと、どの区分が良かったとか悪かったとかの分析ができなくなるので、これまで同様の管理は必要と思う。

【総務部】

公に提出するのは統合した一本化の区分となるが、理事会や評議員会にはこれまでどおり、各区分に分けたものを提出したいと考えている。

【評議員】

統合することにより、これまで以上に横のつながりを強固にしていけないといけないと思うので、よろしくお願ひしたい。

【理事長】

現在の制度だと、各事業所の赤字、黒字はそれぞれの事業所で処理する必要があったが、統合後にご指摘のとおり、今後は事業所全体がこれまで以上に同じ目的、同じ考えをもっていかないといけないと考えている。

いずれにしても、事業団の一般正味財産が2億円を切っているので、このまま赤字を継続すると事業団の存続にかかわることになる。

現状だと、事業団内でも赤字が出やすい区分や、そうでない区分があるので、それらをならして全体として赤字体質を解消したいというのが今回の目的である。

【議長】

複数の施設や事業がある公益法人で、このように事業を統合するのは、全国的に初めての事例か。

【理事長】

全国的には先例はあるようである。

制度に詳しい公認会計士の方々からは、近年はどちらかというと事業を分けるよりも、統合する方が主流になってきているとの話を伺っている。

やはり、公益法人は事業を継続していかないといけないので、厳格に分けるのは少数派となっているようである。

8 その他

《各評議員からの意見・質問等》

【評議員】

埋蔵文化財センターについて、復興事業がほぼ終了とのことであるが、今後の事業量等の見通しはどうか。

【埋蔵文化財センター】

今年度は昨年度の約半分の事業量である。今後公共事業の減少も見込まれるので、埋蔵文化財センターの組織をどうするかなどの諸課題について、県教委等との連携を取りながら対策を考えていきたい。

【評議員】

県民会館は全国的に見ても、多くの自主事業をやっているし、美術館では実行委員会方式が導入され、我々も企画を提案できるようになり、動員が見込める企画展もやれるよう、お互いのメリットを生かしながら一緒にやっていきたい。

公益目的事業の統合は、なぜ今までやってこなかったのかと思う。統合については賛成である。

【評議員】

先日、県民会館のアウトリーチ事業に伺い、非常に幅広い事業をされていることに感心した。

美術館の企画展について、予算はかかると思うが、東京に行かないと見られないような有名なものも是非企画してほしい。

【評議員】

入場者の多さに驚いた。改めて岩手の文化度の高さを感じた。

企画については、マンガやイラストなど、ある意味くだけたような若者向けするものも面白いと思う。

有価証券の運用について、グリーンボンド（環境債）という、比較的风险が低く、利率が高いものが出てきているので、ご検討されてはどうか。

【評議員】

先ほど申し上げた通り、冬場はどの施設でも入館者集めに苦勞するが、美術館で篠山紀信展をもって来るなど、企画力の高さを感じた。

【評議員】

地元作家の企画展は、通常地元では入館者が少なく、昨年度の萬鐵五郎展も同様に岩手では入館者が少なかったが、葉山に巡回したときは図録が完売になるなど、非常に大きな反響があった。

このような展覧会は地元の反応が薄くとも、全国的には非常に意義のあることなので、昨年度のエリック・カール展のように大衆受けのするもので動員数を確保ししつつ、継続して続けていってほしい。

【評議員】

博物館や美術館は我々媒体社とも一緒になって様々な事業をしているが、時として上手く入館者に反映されないこともあり、責任を感じている。

博物館は地の利が若干悪い、美術館は敷居が高く一般の人は入りにくいなどの部分があると思うが、我々媒体社がその部分を補い、これからも一緒に頑張っていきたい。

議長は、以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了した旨を述べ、午後2時45分閉会を宣し、解散した。

9 議事録作成者 事務局長 坂本 誠一

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人2名がこれに記名押印する。

平成30年 月 日

公益財団法人岩手県文化振興事業団 第13回評議員会

議長 印

評議員 印

評議員 印